

## 平成31年度(令和元年度) 地域発 元気づくり支援金事業総括書

|               |  |
|---------------|--|
| 事業名           | 須坂暮らしありのまま農泊推進事業                           |
| 事業主体<br>(連絡先) | 須坂市<br>(産業振興部農林課産地ブランド係 TEL: 026-248-9004) |
| 事業区分          | ⑥産業振興、雇用拡大に関する事業 イ 農業の振興と農山村づくり            |
| 事業タイプ         | ソフト  |
| 総事業費          | 939,589円(うち支援金: 751,000円)                  |

### 事業内容

農家民泊事業の推進に向け、市内の農家民宿紹介ウェブページの作成及び受け入れ農家拡大のための農泊シンポジウムを開催した。また、首都圏の方へ須坂の魅力と合わせ農泊事業をPRするイベントを開催した。

#### ●民泊農家プロフィール作成

須坂グリーンツーリズムのWEBサイトへ農家民宿紹介ページを追加。

#### ●銀座NAGANO イベント

須坂暮らし魅力発信イベント

10月2日(木): 参加者: 16名

#### ●信州須坂農泊シンポジウム～農泊を始めよう～

1月9日(木): 参加者約80名

#### ●農業宿泊体験モニターツアー

10月12日(土)～13日(日)

※台風19号接近のため中止

### 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効

- ① 農家民宿紹介ページを作成した後、9人のお客様が宿泊された。
- ② イベント参加者がSNS等で発信をすることで多くの方に魅力を伝えることができた。
- ③ シンポジウムを開催し、約80名が参加した。参加者から新たに2名が須坂グリーンツーリズムの会員となり今後、農家民宿の開業に向け研修会等に参加予定。

### 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今年度実施できなかった農家民泊の指導者育成を目的としたモニターツアーを開催するとともに、安定的に宿泊客を確保するため、受け入れ農家の拡大と教育旅行の受け入れやインバウンドなど国内外問わず旅行客を受け入れできる体制を構築し、農家民泊事業を定着させていきたい。



【シンポジウムの様子】

#### 【目標・ねらい】

- ① 農家民泊を活用した交流人口増
- ② 須坂の暮らし及び食の魅力発信
- ③ 農泊受け入れ農家の確保

#### ※自己評価【A】

##### 【理由】

本年度農家民宿として本格開業した農家が1件。9人のお客様が宿泊された。銀座NAGANOでのイベントやシンポジウムを開催したことで、農家民泊事業を幅広く情報発信することができた。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

### 平成 31(令和元)年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

|               |  |
|---------------|--|
| 事業名           | 千曲市 あんずのブランド化による地域活性化事業  |
| 事業主体<br>(連絡先) | 千曲市<br>経済部農林課生産振興係 <a href="tel:026-273-1111">tel:026-273-1111</a> |
| 事業区分          | ⑥-イ 農業の振興と農山村づくり   |
| 事業タイプ         | ソフト  |
| 総事業費          | 3,463,255 円 (うち支援金 : 2,770,000 円)                                  |

#### 事業内容

##### 1 ブランド化した商品の市場デビュー

多品種成分分析試験の結果から生食用に適した品種のハーコットをブランド化。

大きさ・糖度・鮮度管理で差別化(果重 120g 以上、糖度 12 度以上、冷蔵下でMA包材使用)を図ったプレミアムあんず「杏月(きょうづき)」(令和元年 12 月に商標登録認可)として商品化し、令和元年 6 月に市場デビューさせた。

各種メディアにも取り上げていただいたことで県内だけでなく、全国的にも千曲市のあんずに目を向けていただく機会を得るだけでなく、下記の販売時には全て完売するなど、一定の手ごたえも感じることができた。

以下、首都圏の販売店等で販売・求評活動を実施。

- ・令和元年 6 月 20 日 : 市内圃場「杏月」のお披露目会
- ・令和元年 6 月 29 日 : 銀座NAGANO
- ・令和元年 6 月 30 日 : 新宿三徳本店
- ・令和元年 7 月 1 日 : 新宿高野
- ・令和元年 7 月 5 日 : 東京駅

上記にて生産者による説明実演等を実施

##### 2 非破壊糖度計の検査機器の研究開発試験

生食用あんずの商品化にあたり、糖度 12 度以上の糖度保証を掲げたが、非破壊の状態であんずの糖度を正確に測る方法がなかったため、糖度を測定できる機器についての研究開発試験を実施した。その結果、非破壊で正確かつ簡易に糖度及び硬度の測定が可能となった。

##### 3 凍害対策・省力化試験について

長野県果樹試験場、長野農業改良普及センター、生産者の協力を得て、千曲市の森地区において株ゆるめによる凍害防止研究やカットバックによる省力化試験を実施した。

- ・令和元年 6 月 21 日 カットバック処理による検証
- ・令和元年 8 月 2 日 "
- ・令和元年 11 月 20 日 株緩め・わら巻の施工講習会
- ・令和 2 年 2 月 14 日 株緩め 2 月処理区施工実施



<杏月(きょうづき)のお披露目会の様子>



<非破壊糖度計についての試験>

#### 【目標・ねらい】

- ①安定した儲かるあんず栽培と
- ②あんずのブランド化で
- ③あんず産地の活性化を図る

※自己評価【 B 】

#### 【理由】

ブランド化を進めてきた生食用あんずの「杏月(きょうづき)」を一つの商品として市場に出すことができた。

一方で、安定的な生産や凍害・省力化対策試験については、引き続き経過観察を行う必要がある。

次年度は上記に加え、反射材敷設試験や加工用あんずの単価向上についても事業を展開し、更なる産地の活性化に繋げたい。

(別記様式第12号)(第3の8関係)

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

令和2年度の事業では、生産技術の確立及び販売に向けて未解決の課題に取り組み、生食用プレミアムあんず「杏月」を主軸として生食用あんずの更なる普及と加工用あんずの高付加価値化を目指す。

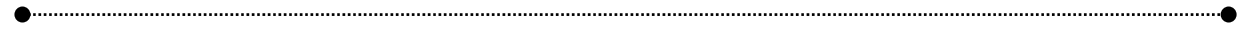
まず、生食用の販売については、引き続き「杏月」をフラッグシップとして位置付け、関係機関が連携を取りながら生産・販売体制づくりを強化していく。

また、生食用あんずの傷みやすい特性や収穫時期が約1カ月と限られていることから、生食用だけでなく加工用あんずについての取り組みが期待されている。

こうした課題に対して生産者・販売者・行政がそれぞれの立場で協同しながら、一丸となって取り組みを加速させていく。

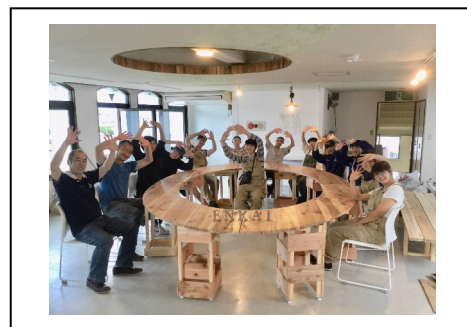
### 平成31年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

|               |  |
|---------------|--|
| 事業名           | 戸隠の遊休農地を活用した「援（縁）農」による酒米づくりと中山間地域を若者視点でつなぐコ・クリエーションスペース「ENKAI（縁会）」 |
| 事業主体<br>(連絡先) | 信州 goen プロジェクト実行委員会<br>長野市大字鶴賀七瀬南部 548-4 5F                        |
| 事業区分          | 産業振興、雇用拡大（農業）  |
| 事業タイプ         | ソフト・ハード  |
| 総事業費          | 2,859,800 円（うち支援金：2,000,000 円）                                     |



#### 事業内容

長野市戸隠豊岡地区でも遊休農地が増加し、人口減少や農家の高齢化・後継者不足などの地域課題を解消するため「米づくり」から始まった「縁」を礎に「中山間地域交流と人材活性化」をテーマに、農家、酒蔵、コンサルタント、大学等が参画して平成28年度から活動をスタートさせる。この活動拠点（プラットフォーム）となる「場づくり」のために大学生が中心となって企画・運営する。学生主体の運営により、地域や企業、若者同士が連携協働で創造する場（イベントスペース ENKAI「縁会」）を作り、様々な交流を生み出し、ローカルイノベーターとしての HUB 機能を構築します。



【ENKAI スペースの様子】

#### 【目標・ねらい】

- ① 若者を中心とする拠点の整備
- ② 米づくりを通じた交流
- ③ 中間山間地域の活性化

#### 事業効果

長野市近郊の中山間地域での取り組み・移住や起業の活動や情報交換機能を兼ね備えたイベントスペース ENKAI（縁会）をオープンさせたことにより、近郊の高校生や大学生が自由に気軽に寄れるプラットフォーム（場）を整備することが出来た。特に、学生主体の運営による「場づくり」によって様々な「縁」が生まれた。若者視点で中山間地の地域課題を捉え、地域活性化の火種を起こす一歩につながったと考える。また農業体験やイベント運営の“かけがえのない貴重な体験”を通じ、地域間連携や人的交流の必要性を肌で感じる機会を創造できた。ヒト・モノ・情報を集約する基盤が整った。

#### ※自己評価 【A】

【理由】プロジェクト全体で延べ参加者 152 名。ENKAI スペースのオープン記念イベント 55 名集客。信濃毎日新聞社など多くのメディアに取上げられた。また首都圏からの移住者も。中山間地で活動する方の活動を知る機会を創造できた。

#### 今後の取り組み

標高 1,000 ㍍の戸隠山麓の休耕田を耕し、『無農薬で自分たちの手で酒米を育てお酒を造る』というプロジェクトをメインプログラムとして、イベント運営・学生支援など、学生が主体となって中山間地域課題の解消に取り組んできました。特に今年度は、戸隠、七二会、飯山で活動する人たちを招いて講演会を実施したが、将来的には長野県外の活動家や講師を首都圏から招聘したいと考えています。また学生だけのイベント運営能力にも限界があり、学生たちの活動をより支援するために「WEB や IT 環境作り」と「経済支援」が課題として見えてきました。今後は長野県外大学の先生、企業経営者、技術者などの専門家を招き、普段聞けない様々な取り組みを授業として聴講し、大学では学べない分野の授業を体験できる場としたい。活動拠点の PR のため長野駅東口地域の方との交流を促進させます。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。  
 「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた  
 「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

## 令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

|               |  |
|---------------|--|
| 事業名           | ガレット・そば粉の普及・振興事業                                     |
| 事業主体<br>(連絡先) | 信州ガレット振興会<br>(電話：0263-87-5741)                       |
| 事業区分          | (6)産業振興、雇用拡大 (イ 農業の振興と農山村づくり) (8) その他地域の元気を生み出す地域づくり |
| 事業タイプ         | ソフト  |
| 総事業費          | 1,996,552 円 (うち支援金：1,494,000 円)                      |

### 事業内容

#### ■第2回信州ガレット祭り開催

昨年の反省を踏まえ、ガレットと地場の食材普及を目標に開催いたしました。県内 28 店舗が参加をし、地域の食材を活用したガレットを提供しました。提供店舗からは期間をもっと長くしてほしいなど、ポジティブな回答を多く頂きました。

#### ■ガレットの美味しさ・楽しさを体感する講習会

ガレットをより身近に感じて頂きたく、事業者の方には店舗で提供、親子の方には家庭の食卓にガレットが並ぶ様に、講習会を開催しました。3箇所で開催しましたが、各会場の参加者の方からは今後の開催希望も多く聞こえました。

### 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

■第2回信州ガレット祭りは参加店舗の増減は無かったが、長野地域内での参加店舗が 2 件増えた。信州産食材を使ったメニューを提供頂き、ガレットの普及と地場産食材の普及に繋がりました。

■ガレットの美味しさ・楽しさを体感する講習会では、講習会終了後の質問時間で、家庭でガレットを焼く場合のコツや、ガレット粉の販売先など多くの質問が出ました。今後、お店や家庭でガレットを焼いてみようという思いが感じられました。親子講習会は食育の観点から、そば粉を使ったそば切り以外の料理を伝えられました。

### 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

- ・信州ガレット祭りは今後も開催期間、回数などを見直し、発展性のあるイベントにする必要があります。店舗とのネットワーク強化のためにもガレット提供店との協働が必要であると考えます。
- ・ガレット講習会は、今回開催できなかった地域での講習会が必要である。また、今年度開催したエリアでも 2 回目の講習会も検討課題である。親子向けの料理講習会は多くないため、今後はガレット以外の講習会も実施することにより、そば粉に対する知識をつけて頂きたい。同時に地域の食材を使用した講習を実施することにより、地場の食材知識を得て普及に繋がりたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



(活動写真)

### 【講習会】

### 【目標・ねらい】

- ①そば粉の消費拡大
- ②ガレット店のネットワーク強化
- ③地域食材の活用
- ④ガレットを体感

### ※自己評価【C】

#### 【理由】

ガレット祭りへ長野地域の参加店舗数は増えたが、全体の目標数字に達しなかった。講習会は、多くの方に参加頂いたが、実施できていない地域があるため。

## 令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

|               |  |
|---------------|--|
| 事業名           | 2019カシス収穫祭で信州産カシスを全国へ広める事業               |
| 事業主体<br>(連絡先) | 特定非営利活動法人 日本の工芸と文化<br>(事務局：026-228-8633) |
| 事業区分          | 産業振興、雇用拡大(うち、農業の振興と農山村づくり)               |
| 事業タイプ         | ソフト                                      |
| 総事業費          | 1,108,900円(うち支援金：830,000円)               |

### 事業内容

- ①2019信州カシス収穫祭の開催(6月)  
都内で収穫祭参加PRイベントの実施  
(県外からの誘客)
- ②信州カシスを用いたスイーツ他の開発と賞味期限等  
設定のための試験
- ③販路拡大の為のPR・広報活動  
都内や地元デパートでリーフレット・パネル・のぼり旗・のれんを使い定期的にPRイベントを行った。



【2019カシス収穫祭】

### 【目標・ねらい】

2019カシス収穫祭を通じて「信州産カシス」の認知度を高めることにより、新たな地元の特産品としての販路拡大を図り、農業文化を通じて長野市や長野県の魅力を高めることを目的とした。

### 事業効果

- ①東急百貨店吉祥寺店・及び長野店で収穫祭参加PRイベントの実施および開催案内チラシやのぼり旗などの設置により来場者数が増加した。
- ②カシスを使ったスイーツは見た目にも味も良い物ができた。(カシスマカロンなど)  
マスタードは、フライや魚等和食にもよく合う事がわかった。  
生菌数測定試験では、賞味期限を迎えた商品でも菌の増殖はみられず、賞味期限が延長できる兆しがみえた
- ③定期的にPRイベントを行ったことで信州産カシスの知名度も向上しカシスの消費拡大・販路拡大に繋

### ※自己評価【A】

#### 【理由】

○都内で収穫祭参加PRイベントの実施した結果、東京近郊をはじめ、わざわざ石川県や秋田県からも来場して下さった。県外でPRする事の重要性を感じた。

### 今後の取り組み

- 収穫祭は地元に着定しており年々参加者が増えている。カシスの会・近隣の農家の方々・障がい者施設の方・地元の保育園の園児・等の一大イベントになっている。ここから色々発信して行きたい。
- 信州真島産カシスは、完熟した実のみ手摘みで、丁寧に収穫している。今後も安心安全・体に良く、美味しい製品の開発を続けていくことが消費拡大につながると思う。